



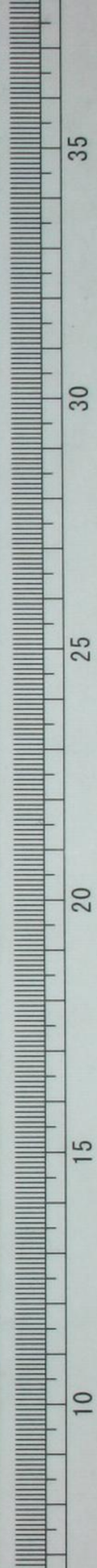
再撰

花洛名勝圖會

東山之部

三

イ13
528
3



4 18
528
3

東山名勝圖會卷之貳

目錄 四條以北續

聖衆來迎山禪林寺 本堂 鐘樓 祖師堂 鎮守春日社 來近松 悲田梅
 清和帝御塔後三條帝御塔 神樂殿 經藏 講堂 學寮 行場
 正東山若王子 熊野權現社 拜殿 神樂殿 經藏 講堂 學寮 行場
 玉鏡池 如意輪社 秋篠社 素行社 翠竹社 瑞雲社 瑞雲社 瑞雲社
 光雲寺 本堂 方丈 鐘樓 同倚 同文殊堂古跡 願成寺廢跡
 本願寺 瑪瑙石 三尊塔 大鷹 繪馬舎 東本願寺懸所
 地藏堂 天王御旅所 元應寺古跡 堀出觀音
 親實屋鋪 蓼倉藥師堂 滿願寺 本堂 祖師堂 文子天神社
 法勝寺舊跡 本光寺 妙見堂 芭蕉翁寓居跡 小澤蘆庵跡
 鳥居大路 東三條社 東三條殿古跡 妙傳寺 神堂
 七面明神 大黒堂 西方寺 衣通地蔵 大炊市門一家塔 聞名寺 先考天皇塔
 柳師蒼虬墓 小野寺秀和母并一族墓 堀田氏墓 秋野道場

大正十五年二月

大恩寺 教安寺 妙泉寺 要法寺
 正行寺 法皇寺 行者堂 觀音堂
 白河北殿 同新御所
 寶莊嚴院古趾 粟田社舊趾
 中馮標隱翁故居 圓覺寺舊趾 新羅社
 善正寺 土肥二三趾 黒谷光明寺
 勢至堂 崇須院殿以下貴族諸士之塔
 中山 淨光庵趾
 陽成天皇陵 元真如堂 極樂寺 後一條院陵
 菩提樹院古趾 大塔屋敷 源賴政御塔
 冷泉帝陵 神樂岡 吉田家 吉田神社
 神恩院 吉田大納言經房御亭古趾
 兼好法師庵室古趾 愛宕墓 後愛宕墓
 彌勒堂 弥勒川 泉殿 一本松二本松
 牛宮 月輪川 近衛河原 身隱森
 神樂岡 木丸社 西天王社 神海靈社
 梅門 明星水 勅使塚 日祥坂
 日本國中搦旗社 神樂岡 神龍院
 新長谷寺 同山莊地
 外宮 内宮 中門
 日本最初橋前社 山三洞 沖後河

寂光寺 三福寺 頂妙寺 本妙寺 梅林茶店
 白河南殿 崇徳院御影堂 賣茶翁通仙亭趾
 御所橋前社 近衛坂 香川氏宅
 飯成社 飯成社 飯成社
 後高倉院 聖護院宮 白河院 櫻家
 熊野權現社 熊野權現社
 見性寺 專念寺 夢見地蔵 見性寺
 大恩寺 信行寺 正行寺 法皇寺
 妙泉寺 要法寺 行者堂 觀音堂
 白河北殿 同新御所 寶莊嚴院古趾
 中馮標隱翁故居 圓覺寺舊趾 新羅社
 善正寺 土肥二三趾 黒谷光明寺
 勢至堂 崇須院殿以下貴族諸士之塔
 中山 淨光庵趾
 陽成天皇陵 元真如堂 極樂寺 後一條院陵
 菩提樹院古趾 大塔屋敷 源賴政御塔
 冷泉帝陵 神樂岡 吉田家 吉田神社
 神恩院 吉田大納言經房御亭古趾
 兼好法師庵室古趾 愛宕墓 後愛宕墓
 彌勒堂 弥勒川 泉殿 一本松二本松
 牛宮 月輪川 近衛河原 身隱森

猫墳 田中里 野川御所 佛々
 百萬遍知恩寺 本堂 觀音堂 勢至堂 地藏社 經碑
 戰死上人塔 中御門 日野 安樂院 善導院 地藏堂
 後二條院陵 二軀石佛 白河 上栗田 北白河殿
 栗田山莊 淨土寺古蹟 十禪師社 西方院舊跡
 銀閣慈照寺 庭佛 殿 東求堂 二層葛岡 葛松院殿塔
 慈照寺山城 辨慶屋敷 鹿谷法然院 善氣水 鎮守祠 地藏
 浴室 隆樓 安樂寺 本堂 松密 數虫 兩層塔 大豐明神社
 表門 阿音塔 住蓮安樂一兩階 神護寺舊蹟 如意寺
 圓城寺舊跡 靈鑑寺殿 談合谷 樓門瀧 池地藏
 同古蹟 鹿谷 葵谷 如意藏 子石巖 七月十六日夕大文字送火
 魏王祠 中尾山城跡

東阜春望

遊東山者多入夜歸去
是以雅昼携提灯

東山三月櫻花地布幔
 羅旌蔽伯陵 蠢僕往來
 何所有提爐提合又提

燈 右石丈山翁
 霞潛集所載

應需
 書博士


聖衆來迎山禪林寺

南禪寺の北隣に浄土宗西山流西谷池徳本山無量壽院とあり

本堂 西向 阿弥陀佛

長三尺余五像見返の相なり世小見くろの本尊とす

脇檀 左

永觀律師

立像長一尺三寸許 右

浄土曼荼羅

鐘樓 本堂南傍あり

祖師堂

本堂の北あり南向中央善導大師立像二尺三寸許自作

鎮守春日社

祖師堂の北あり

來迎松

本堂の前あり松樹の上小菩薩

悲田梅

東山禪林寺とす所小龍居つ云い此禪林寺小梅の

菩提樹

祖師堂の傍あり

經藏

石階の下あり

方丈

經藏の北あり

講堂

此の傍あり

學寮

講堂の前左右あり

行場

講堂の前あり

清和帝御塔

後三條帝御塔

方丈の東南墓地の上壇あり二回四角の石塔あり

九重の塔あり

此塔は後三條帝の御塔とす云云昔小幡茶毘の灰燼を収め奉るあり

清和帝の御火化の地

粟田山今を礎上神明山の中小幡家と稱する所あり

山と白川將軍地蔵山

死たれと云ふやと思ふ權考ふべし

三代實錄曰元慶四年十二月四日癸未申二刺太上天皇崩於圓覺寺時春秋三十一

詔火葬於中野不起山陵使百官及諸國不舉哀停素服亦勿任緣葬之諸司

表事所須惣從省約七日丙戌夜酉四刺奉葬太上天皇於山城國愛宕郡上粟田山奉

置御骸於水尾山上又後三條帝御火葬亦總林寺より北の方鹿ヶ谷村あり路傍の左小幡山王塚と

扶桑畧記曰延久五年五月七日庚戌太上天皇春秋四十崩十七日庚申葬於神

樂立東原六月廿二日甲午於圓宗寺被修七々御法事

皇年代私記曰延久五年五月十七日華神樂岡南原安置御骨於禪林寺

云是依方忌暫奉安置也於山

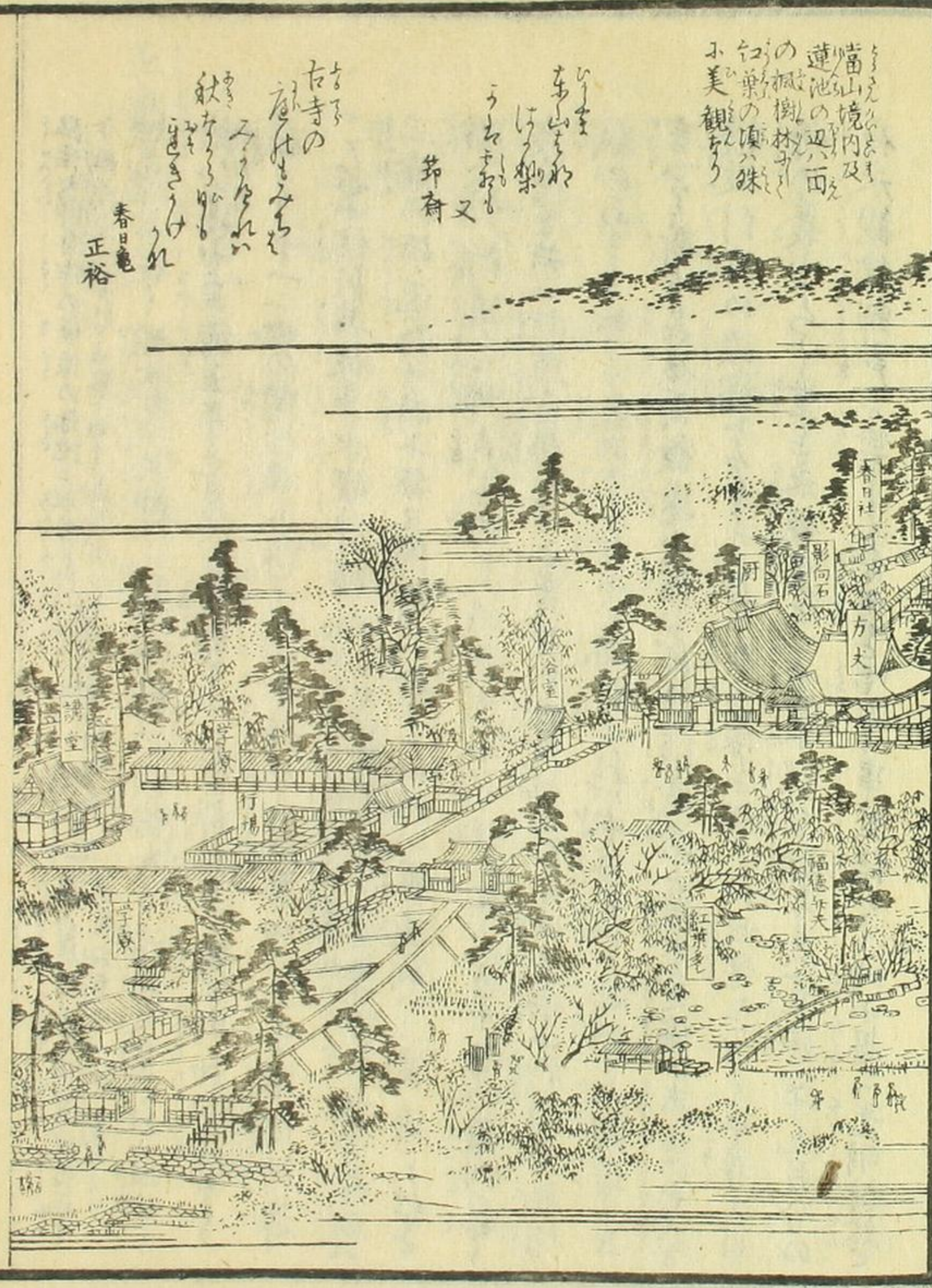
松平定綱廣塔 右同所の中種あり伊勢國桑名城主松平越中守定綱廣なり

松平直留廣塔 同所あり越前國大野の城主松平但馬守直留廣なり

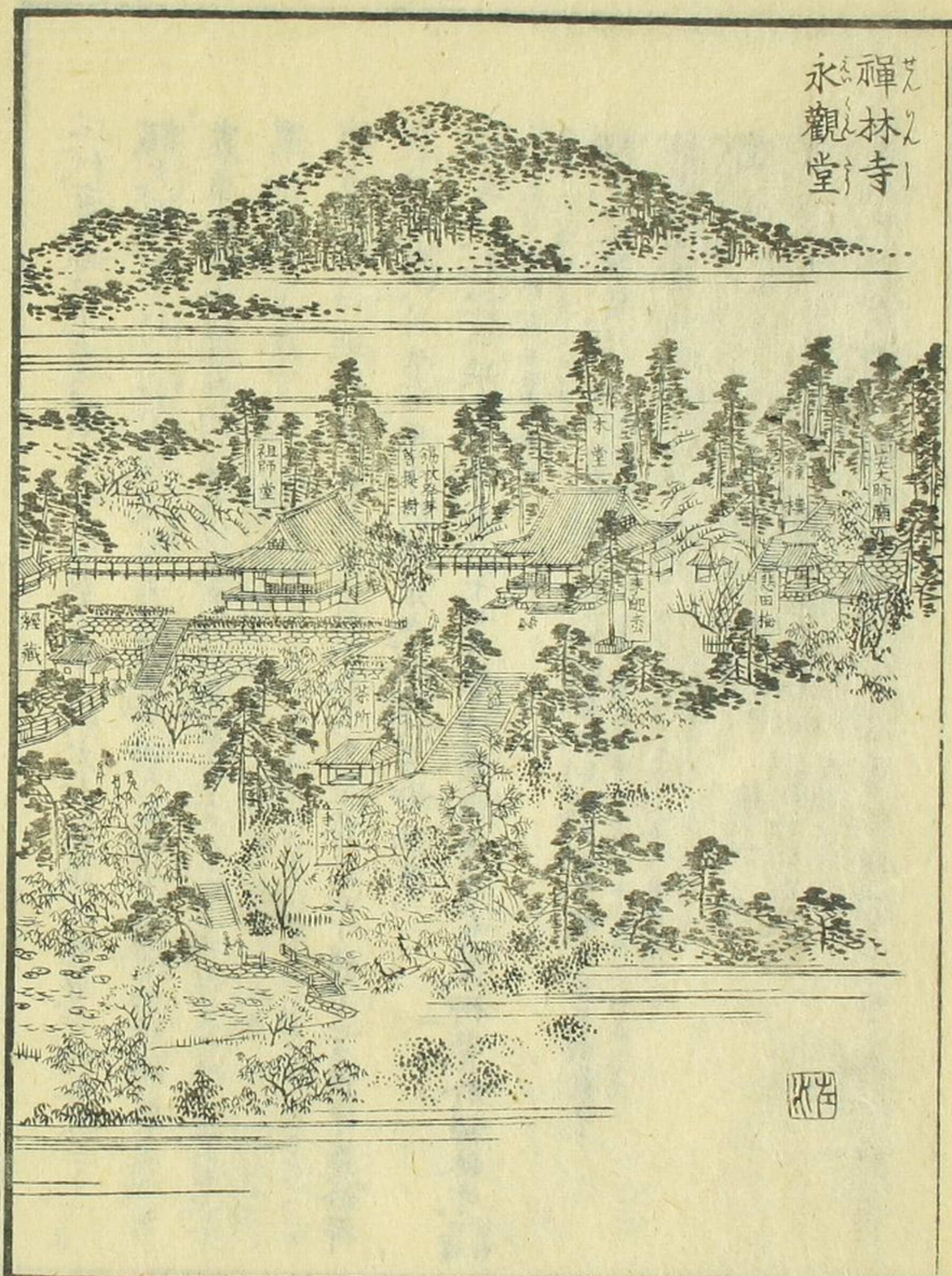
當池 名義詳なり 茶室 井天池の南あり

當山の其始東山進士藤原朝臣閑雄 能書あり

文德天皇齊衡年間弘法大師の法孫真紹僧都とす佛刹を開基



當山境内及
 蓮池の辺に
 の楓樹林あり
 紅葉の麗は殊
 小美観あり
 いま
 春山もわ
 けり
 うらやみ
 又
 節奇
 古寺の
 庭はもろもろ
 秋草もみぢ
 けり
 春日
 正裕



永観堂
 禅林寺



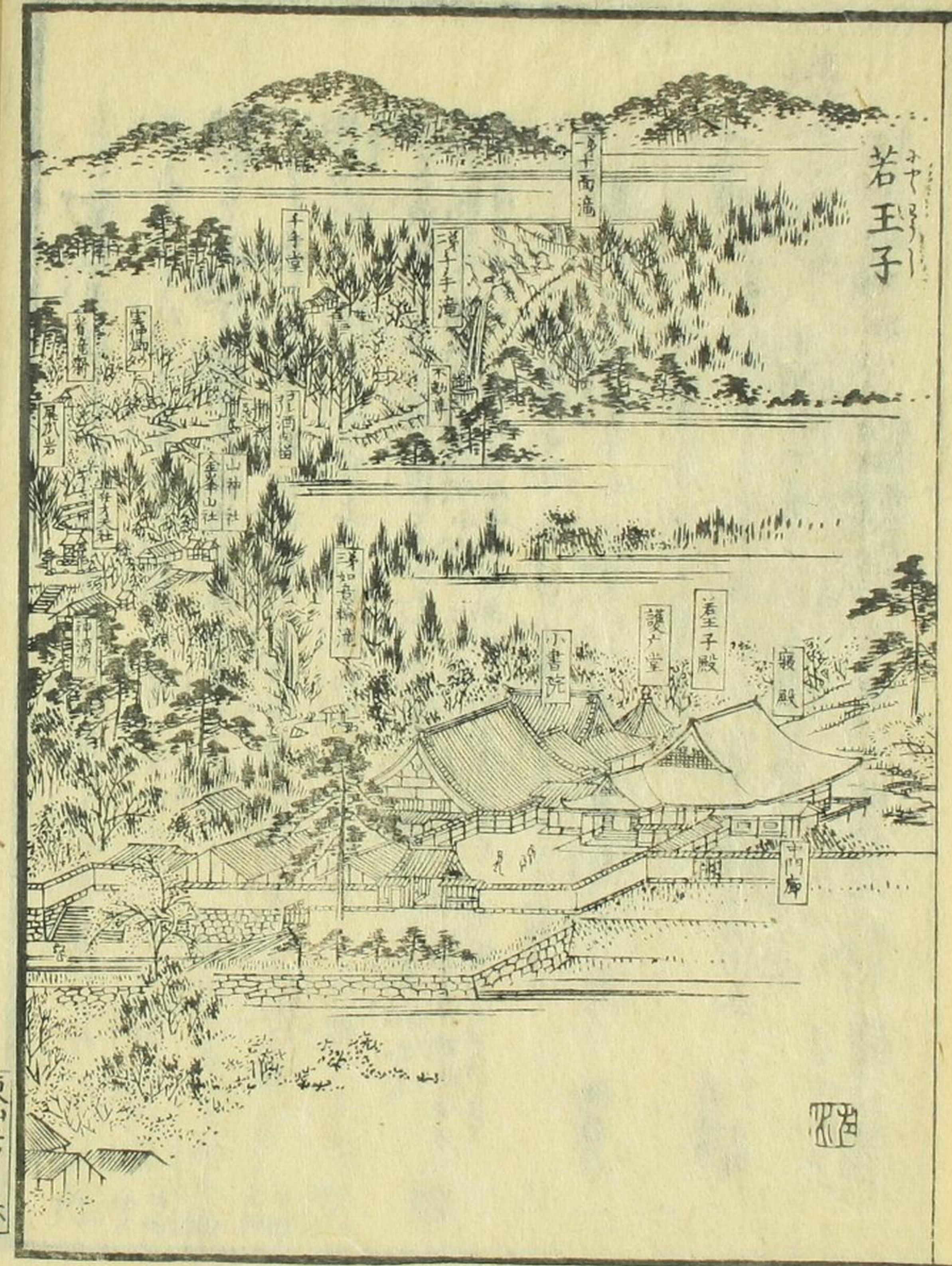
弘法大師自作の座像の跡陀と本尊とに
今傳授堂小安に云故小初々真言宗 第二世宗叡僧正
後入唐僧正又田覚寺僧正也
引在左京の人池上氏なり
 智證小後頭密と兼學一誠小學解の碩徳たり清和天皇これに依り
 給ひ遂小貞觀五年九月六日定額と名を禪林寺と賜上則勅願所なり
 茲より十二世の間任職を詳せば余後花山院第四の王子深觀僧都
 此小住に其徒弟永觀律師但馬守國奉孫進士入道國統の子なり
今本堂の願躬本尊と云永觀所持の像 次任職
 三論の碩匠たり時小毎日佛前小於念佛一萬遍或ハ二萬遍心
 唱或ハ行道念佛声を惜まば然り小永保二年二月十五日晨例の如
 衆僧と共小行道念佛せり小奇異や弥陀佛檀より下り共小行に律師信
 感のあまり暫く乾の方小向や躊躇せんば本尊尤を顧眄永觀還りと
 言へ斯く其後面貌遂小復らば律師感涙と流し是偏小末世の衆生と
 撮取引接の證鑑なりと自ら其由縁を記され此像を以て本尊と
 件の義小と堂と永觀堂とよ又來迎山と称する寛治二年九月八日の
 夜永觀律師声を發し念佛と唱ふ事至信なり時小忽ち光明赫然と

聖衆來迎し星の如く庭前の松樹の上小集會はこれに以て山号に
 茲より代々を重ね相續し曾て池の大納言の息靜遍僧都仁和寺
 寺の僧也小住源空の滅後小撰擇集と披闡一向專修の義と立源實朝
 公より是を皈依給ひ武運長久の祈禱の爲小大般若經を轉讀其例
 絶行而後西山證空上人の徒弟西谷淨音和尚小任職大小西山
 流を興隆盛小浄土宗と弘む此當山中興浄土の開祖なり
一説小駒の僧正道智亦斷寺小住すと云往昔此地小北禪林寺南禪林寺と云
あり後小北の字と傳き禪林寺とい南禪林寺は後小改め南禪寺と云はれ
 後撰禪林寺小人 山家秋曉と云ふ人信る
 暮ゆけはあまら の虫のる尾上の庵もなつ 三つり 源頼家
 新拾遺 禪林寺ま 新律師 永觀
 正東山若王子 永觀堂の北小隣天台宗聖護院官院家乘々院と号す
 熊野權現社 南向 本宮新宮那智寺領七十五石 持殿 南面 神樂殿 四社の
 蛭子社 持殿の



若王子の
殿のほう
くらゐの
たんま
おの
むす
は
い

東山三六



若王子



本地堂 拜殿の東あり西向千手十一面如意輪等の観音三尊を安置

祖師堂 本地堂の南隣り授行者 神斐菩薩を祭る

鳥居 南向額 熊野大権現 聖護院道鬼親王

御禊瀧 祖師堂の東あり

醉花臺 天祠の北あり山中 玉鏡池 醉花臺の 如意輪瀧 弁天祠の前道あり

秋錦舎 醉花臺の東あり 素練瀧 翠陰瀧 共秋錦舎の 傍あり

看滝舎 右日所の 甘露瀧 日上 屏風岩 看滝舎の 下あり

千手滝 山上あり湯あり滝とよ 千手堂 滝の傍あり 十一面瀧 千手滝のよあり

稲荷社 北の山上あり 妙見社 稲荷祠の 延年臺 妙見祠の傍あり南華頂山西 松間展望 巖風景の地あり

瑞雪亭 延年臺の下あり地也 嬌鶯軒 迎月居 松間展望 巖風景の地あり

當社熊野大権現 後白河法皇紀州熊野三所権現を渴仰の御志願 深くまじり 三十三度の御幸あり 猶も敷信のあり 洛陽三所を授け 給ふ

との敷慮や 處々の靈場をト 給ふ然る小當山王城鎮護の台山の

南 山中三の滝あり自ら神妙の靈地なり法皇敷感斜を授け即

當山 那智と定め永曆年中紀州那智山の土砂を運むる権現を勧請し

給ふ所なり 皇居の正東あり在を以て正東山と称す熊野権現の若宮女一

王子の神名 若王子と号し往昔後白河上皇臨時の御幸台慢

ちく月御諸司歩 運ひ繁花の地なり 神殿美飾とを 樓門廻廊

祭義の殿宇備 たり足利尊氏公殊に権現を歸仰 大僧正良海と以て

座主 以後後聖護院門主の先達とす又當山の中より花の名所

寛正六年三月 四日將軍義政公御花見あり花頂山より若王子小

御成あり 雜掌に細川右京大夫勝元を勤むる古記に見えたり其余翰

林五鳳集 も若王子の花を看る歌を詠む事或載たり然る小應仁の兵乱小

よ 此邊軍士の屯たる故敷荒廃及びたる小近來信心の徒古昔を慕ひ梅

櫻楓等を數株寄栽 神社佛閣を再營し山中風流の亭舎をまつ其美

觀を増ゆる 四時の佳境なり小勝を信心の泰詣遊宴の驗人墨客常小雨断なり

當寺管主の修験道を兼職し本山山伏の棟梁たり役行者の法則どぶ
靈寶を相兼し聖護院門主の入峯先達の義を知らうと云々
大僧正澄存塔 當寺あり徳本院と号し是則若王子の住職中一聖護院門主西峯比
大先達たり澄存僧正今川氏真の子なり一八千枚の行人兩峯三十五度
ちり七十有餘歳 今川氏真塔 日所あり

著聞集云助僧正覺讚 十訓抄云三井寺の
覺華僧正なり 先達の山伏なり那智千日
行者大峯數度の先達なり五十ふあり有識も補せざらうと憂へ
若王子小讀く奉アタリ

山川のあまうすわ... 弘化四の... 文世大納言 通理卿
若王子の太なきら... 彼山は... 月の輪... 名ふた... 花もみ...

靈芝山光雲寺

若王子の北あり禪宗南禪寺に属し塔頭三院下馬牌英仲和尚華
寺領三百石

法堂 西向 釋迦牟尼佛 坐像一尺 左迦葉 右阿難 右大明國師像

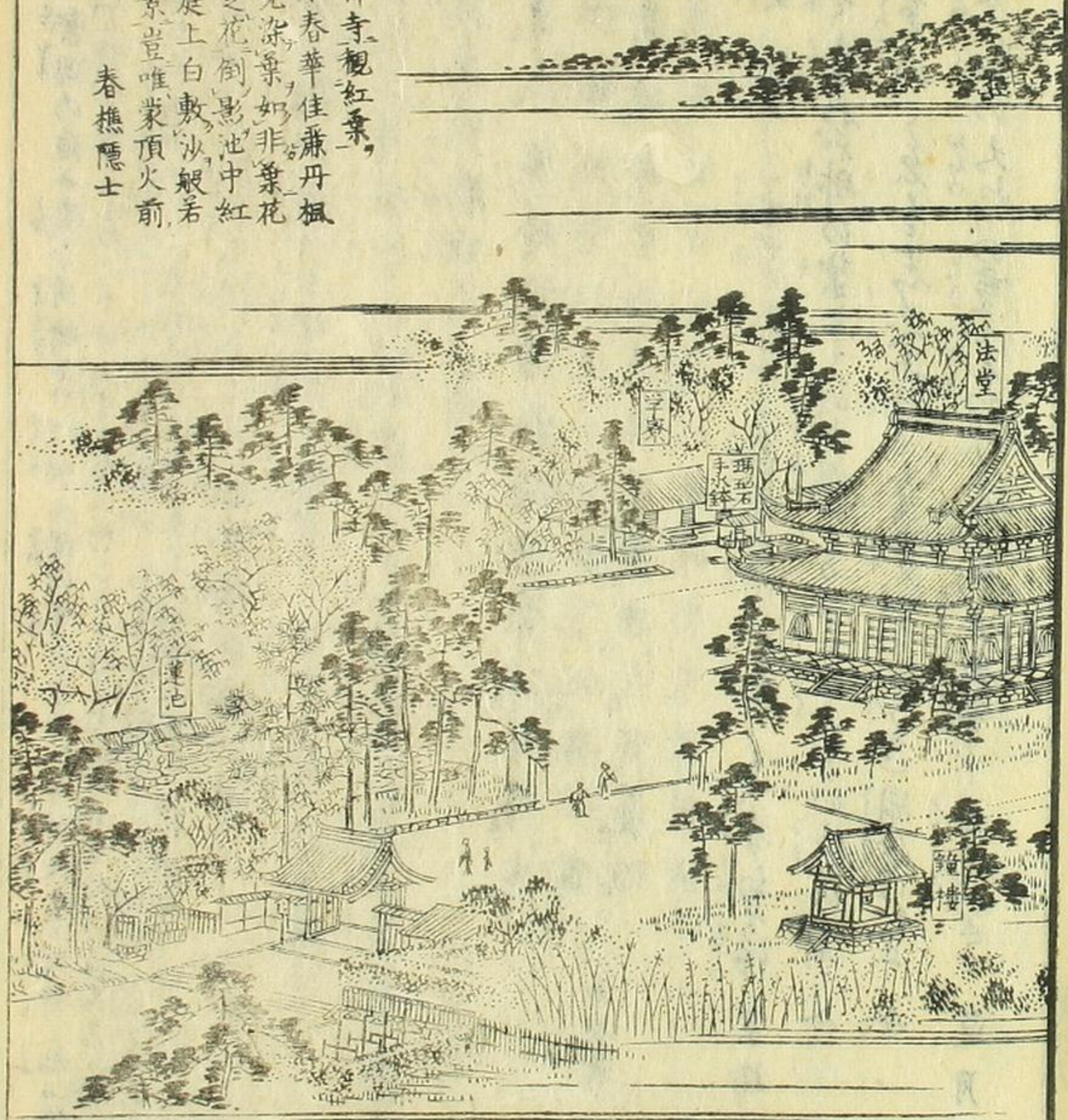
方丈 法堂東在書院板倉周防集 居士と寄附 志當あり 鐘樓 本堂の南傍 蓮池 本堂の西

瑪瑙石手洗盤 本堂の北傍あり 當山の奇觀

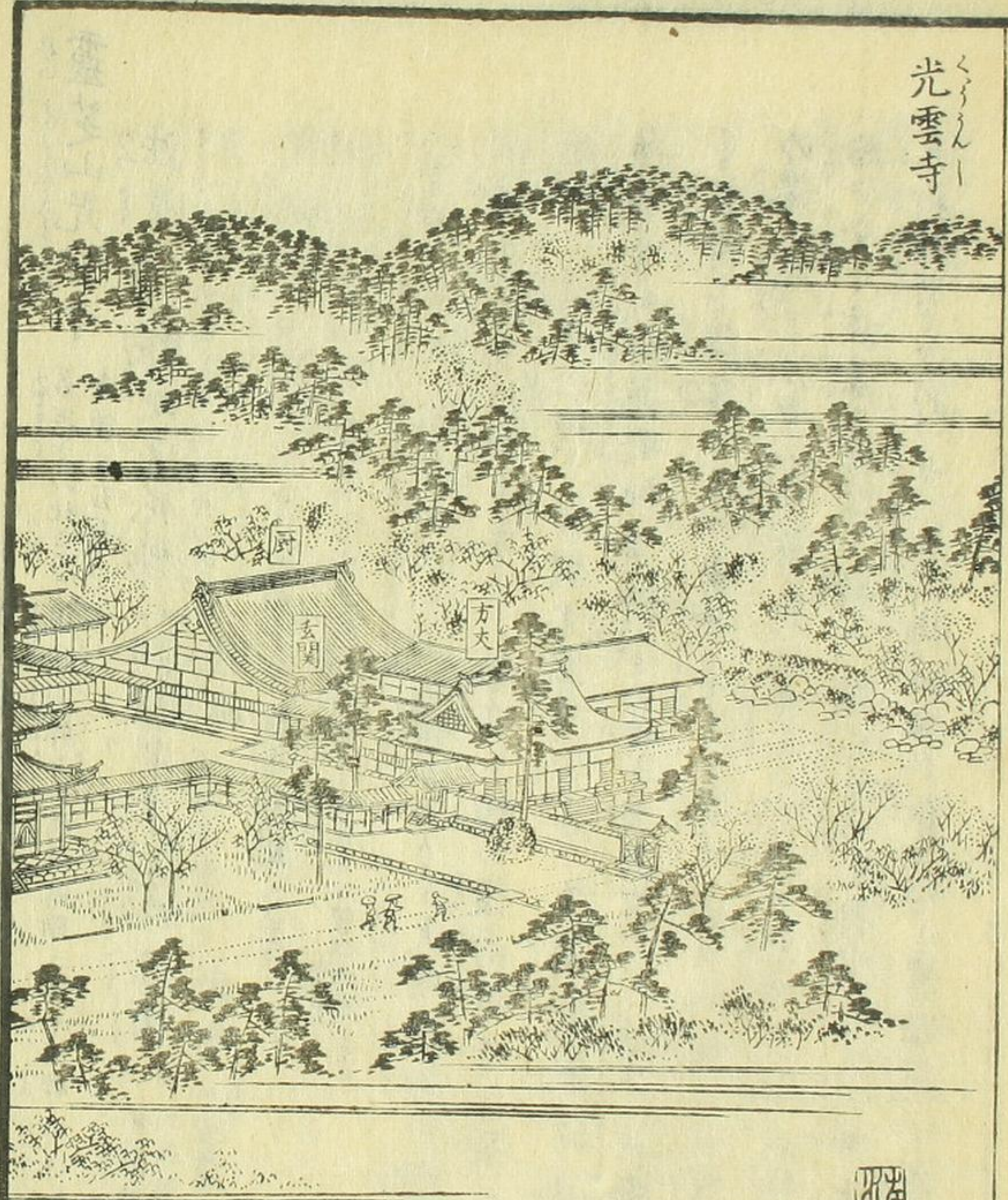
妙莊嚴院塔 本堂の南あり東福門院の姫宮女三宮の塔あり

當寺ハ其始メ横州四天王寺の傍あり大明國師の創建なり
國師龜山帝の勅を奉り離宮を鎮め後南禪寺を開く當寺ハ
國師の法孫住持し安國光雲寺と号せしを應仁の乱より廢絶せしむ
南禪寺天授庵英仲禪師今の地ハ再興せんの時ハ東福門院深
く禪師を隨喜し多し黄錄若子を寄せし且門院の念持佛釋尊
の像を賜り法堂の本尊なり又方丈ハ門院の姫宮女三宮の御殿と移し
給ひ全く莊嚴と盡せり時ハ後水尾帝の勅より巨鐘を鑄り
大初願所となり女三宮ハ御皈依の故を以て豊後前山小莪り奉る

游光雲禪寺觀紅葉
 小春真個小春華佳肅丹楓
 秋後霞葉光深葉如非葉花
 色敗花不是花倒影池中紅
 湧水掃塵庭上白敷沙艸若
 湯瓦醉斯景豈唯蒙頂火前
 茶
 春樵隱士



光雲寺



岡崎

神樂岡の南小隣岡崎とい神樂の岡の崎小なりたり所故志の岡崎と稱し
元室權寺村と号し今上中下の三村より上黒谷光明寺の西門と稱し
の中より西の村が小至り民居を出在家より中と元應寺前と云岡崎天王の所據所の
東より南に至る在所より下の藥師の迎より南の方より方積九東西十四所南北十二所十間と云
此地名跡寺院の古跡多し今猶幽靜閑雅の地なり南粟田華頂
の勝景小對し遙く南嶺と眺望し市中の囂きを隔てて遠
わび故小貴族良民の別荘と和漢文墨の處士爰小ト居る
多し洛東の一勝地と云々

負山臨野足榛荊將此荒涼自得名
俚雅同踪幽巷古官私半地衆蛙鳴
賣珠補屋誰借老學圃種凡宜養情
請者浮生總歸此寒林咫尺暮煙橫
中島規
妹とつが若菜梅や雪傍の垣ぬきき苔ぬを落 景樹
冬もぬけ氷の葉やけの山風の音づり雪をわすれの里 全
冬葉のこゑとまふふ海なるかへをさき同鳥北里 全
冬物の大木の葉をわすれけえくけえ出さき 雪傍のさと 蓮月

文殊堂古趾

願成寺趾

密懂寺と号せり本朝三文殊の一なり堂塔廢し其趾詳くは
文殊の尊像ハ今新黒石の三重の塔の本尊なり
下岡崎の東の端あり今ハ本願寺の
掛所と云

本尊阿弥陀佛 脇檀親鸞聖人如信上人之影像 又聖徳太子
開山上人三十五歳離別の木像等を安け
此地ハ其もとハ真言院なり諸堂嚴重たりハ應仁の兵火ハ罹
りて烏有と云れり而ハ後年久ハ荒廢小及びて近年

叡山の沙門普照再興ハ醍醐三寶院小属ハ住職セリ沙門普照
滅後久ハ無住たりハ河内國佐太東迎寺の慈雲上人止職ハ大
念佛宗を世弘通ハ堂舎を再興ハ志ハ爾後又ハ頼廢セリ
近年至本願寺の掛所と云ハ堂舎田莊小なる夏を得たり

東天王社

本社

右日所の北より例祭九月十六日神興一基針七本中岡崎の御旅所ト渡所あり岡崎
三村及び三条東石垣所悲田寺村ハ生土神なり
南向 牛頭天王 素盞鳥 拜殿 南向 繪馬舎 拜殿の鳥居 南向石柱額
正一位東天王
権別府志云祭礼の日針七本神興ハ先たる各々を捧ぐり其を針と参りて
其内一本劍鐔の上ハ泥塑の大鷹彩色を施し之を置是ハ大鷹の針と云村民

神室と称しこれを崇む銚の剣銘あり云

表 祇園新宮 裏 永享十の年〇月〇日 社記云夫當社の神寶大鷹銚人皇八十代 高倉天皇御宇兼安

二年辰六月十四日祇園御靈會を太上天皇御覽ありと御沙汰あり

々々豫より諸國の末社小觸をせし結構を模様兼保の

例の外小屏銚山崎の定銚大舍人の笠鷺銚岡崎の大鷹銚安古陀

銚を初く白河銚小つたつた諸國の末社より出所銚をく六

十六本又造山八撓舞舞跳銚笠車小舍人雜色を加へ天下無双の

祭式をわたり是大鷹銚の盪鯨あり其後二百六十六年を経る百三代

後花園院の御宇永享十一年己未六月十日御敬神の餘り小命令汝

社司小下り錢七千匹を賜ひ兼安の銚を修理せしを給へ夫より後

岡崎の住人等老少男女輕財を同志小集り兼安の銚を摸り新小造り

出し祭禮小樹兼安の銚ハ神庫小納め今小存在せりト云

東 本願寺懸所 右口所の西隣 本尊阿彌陀佛 照檀親鸞聖人教如上人の影像と

左右掛る本堂庫裏役所桑所あり近年修造あり美觀なり

地藏堂

右同所の西あり崇福寺と云俗草の地蔵といふ瘡毒を患ふ者祈願せし

靈驗ありたたり是往古の元應寺の古佛なり

天王御旅所 同所の西道の西側あり九月十日祭禮の時東天王の神像を渡御

あり汝所を元應寺前より東側元應寺より佛あり

元應寺古趾 右小東側の地あり當寺ハ後醍醐天皇の御願所

附基傳信和尚宗旨天竺より應仁の兵火焼七し

應仁記云此寺ハ後宇多天皇の御願所なり龍の御手小錦の寶持土壇と

築せり十三階あり

雅州府志云傳信和尚の開基より第二世慈意和尚の時戒壇頂の地より而し山口より

戒壇より一受戒の道場ハ後醍醐後宇多二代の教額あり依りたり

掘出觀音 同所西側あり元禄年間北の方の竹藪の内あり古井ありあり

親鸞屋敷 同南郡産の茅の北竹林の地あり此所ハ五劫庵といふあり親鸞上人

三十三歳の時元久二年四月撰集書寫したる旧跡あり此事本願寺傳記に出

たり土人親鸞やまといふ又聖護院の北小月輪殿下の別荘の旧地あり田の字を月輪といふ地

たりか西所あり

夢倉藥師堂

東天王の西南あり夢倉山法雲寺といふ傳教大師の開基も或ハ僧正行基

加茂明神の級依佛の兼師の小像を以て其像の内小と云

本堂 西向 藥師佛 座像一尺余 服士二天子 十二神將 本尊の厨子の

傳教大師作云 當寺ハ往昔下賀茂郷夢倉の里小あり一年洪水漲り出く堂宇おし佛龕

漂流し延勝寺の邊小止る則ち堂を其流止る所小建立然も缺ひ

あるふより又今の岡崎村小移り斯地ハ三井寺圓滿院の領地なり

花園房能僧正別當たり今岡崎に在りて世に莫多倉の薬師と称し
 此事詳し中山定親卿の薩戒記に見えたり又云應永卅二年八月四日
 内臣七人御脳御祈のため七佛薬師に詣りて
 満願寺 右薬師堂の南あり法華宗示現山なり住昔弘長の時遠祖吉田より神道傳授の時寄宿の地なり元禄年中東三所基町上人の折開眼一神道傳授の
 本堂 西向 法華首題牌 釋迦牟尼佛 多寶如来 袒師堂 江戸堀の内分身の袒師と安代額元隆筆又天祥の袒師大覚大僧正の作
 文子天神社 堂前の北側あり菅公御自作當寺の護持あり其初め北野より後世
 鐘樓 本堂の南 閼伽井 堂前南あり是法勝寺の閼伽井なり
 法勝寺舊蹟 同村あり法勝寺の一頁あり 法華堂 藥師堂 八角塔 常行堂
 曼荼羅堂 小塔院 不動堂 鐘樓 經藏 惣社 山王二重塔 八十六間廻廊 南大門 西門
 北門等 觀々たり 應仁記云堂八間四間南面小池殿あり云々
 記云白河院美曆元年十二月十八日法勝寺建立供養の日 帝行幸同永保三年十一月一日
 法勝寺の塔成座主良真慶の導師其層九級也云々
 中興の祖慈威上人より天台淨土宗を興し以人東坂本西教寺と草創り當寺
 應仁より後金堂の本尊薬師佛へ西教寺よりうつり云々
 塔壇 當村の西北所ありありあり 五大堂 塔の壇西三十間あり黒谷道の東側あり方十間余の芝生あり中より榊の木三株あり上人三本木と称し惣々以迎へ諸堂の旧跡あり時々田畑より佛器金貝等と掘出せし閼伽井八前より満願寺の境内に存り

太平記云康永元年三月廿日小岡崎の在所より俄に失火出来り傾く
 燒静了るが線たり細煙一燃り遙く飛去り法勝寺の塔の上より落留る
 初め燈籠の火の如くやく消もせし燃り乾たる檜皮は燒付り
 黒々たり天を焦り燒よりぬ白河院の御建立ありて壘地たりされしを
 堂舎の構善畫美盡せり本尊の饒命金剛鏤り玉を琢り中より八角
 九重の塔婆の横堅り八十四丈あり重々金剛九會の曼荼羅を安置
 三國無雙の雁塔を造り始め造出さず時天竺の無熱池農具の昆明池
 我朝の難波の浦に其影寫り見えたり事こそ奇特なり云々
 俊寛屋敷 同村東の藪の中あり法勝寺の執行俊寛僧都の住せり跡たりと云又中岡崎村に侍童有玉の宅地と云所あり後人の附會せりや不審
 風雅 系標のゆかりは法勝寺に在り
 家集 系標のゆかりは法勝寺に在り
 拾芥抄云法勝寺尊勝寺圓勝寺寂勝寺成勝寺返勝寺都合六箇寺なり
 今成勝寺の趾は東三條の北白川橋の東なり返勝寺の趾は法勝寺の旧跡の西よりあり

田勝寺の跡は延勝寺の旧跡の北あり尊勝寺のあり岡崎村の西社車道の一町あり
西あり最勝寺の跡三条の南鴨川の東ありソレもソレも諸堂は羅々々
落慶の日の漸行幸あり一松岩あり見たり

法勝遺蹤何處求 回思往事總悠悠
香臺一日廻仙駕 金殿百年空兔裘
山鳥聲喧松栢晚 野田風動稻粱秋
寂寥今見禪關下 白水溶溶不斷流
藤原正臣

本光寺 満願寺の南あり秋河の妙顯寺寂堂慶師宗居の地なり後本光寺の空堂領作
俗西梅畑の本光寺を樹て本光寺の總持所成り近世松岩寺と多し樹也

芭蕉翁寓居 満願寺の南本光寺の東北あり
俳祖芭蕉翁花洛經徊の時志々々此小住居せしれ没後其門下鳥落人
惟然坊美濃國関の人なり原富家なり後貧く成り能潜をるの芭蕉の門人なり
風狂々所定より行時發か又狂々同門の許六其句を集め天狗集と号す

妙見堂 西向北辰尊星と祭る灵驗 方丈 妙見堂の東北あり座敷の結構林泉の風景
美觀なり故四時遊宴の雅客剛謝なり

風蘿念佛 風蘿念佛の号なり 頼む椎の木もあり夏木左音散檜木竺
讀よ作て風ひく木魚を打なむひたふ心を清く月雪をあをれり此和讃を
讀よ作て風ひく木魚を打なむひたふ心を清く月雪をあをれり此和讃を

南無阿彌陀佛 此例少敷有り 又此人の吟多中詞書小有千斤金不如林
中貪と書く「ひたふ不馴く寐る霜夜哉又詞書小世の中いふと思ふ
心より以て夏なく氣を養ふふと一人志す實小此道のぬらぬ鳥是あや
其情其生涯の形勢を知る終小寶永八年二月九日此所於没然る小
近年俳師五升菴蝶夢と住く其趾と云 其傳著述多し又文集あり寛政八年没し年七十八

櫻會序云 鳩の屋昌秋 岡崎の里へむ 六勝寺と名蓋あり 地中先師蝶夢
も住せむいかな其草の菴小隣たる本光寺あり云

小澤蘆菴趾 同所小あり蘆菴翁名は玄仲一小觀荷堂と号し通稱帯刀も尾張の人あり
仕ふ時小年三十五と仕へを退き華科と業し後歌を以て活業し初め為村郷小
後い後自ら一家をたし其名一世小鳴る矣小此翁の翁哥におけりや才氣秀拔古今の軀を
自由少し近世小出たり宗匠なり平安中興の良師といふなり享和元年四月十日

鳥居大路 上岡崎より栗田口十禪師の過つた大路と云又車大路といふなり
太平記小云建武二年正月奥州の国司北畠顯家卿二万余騎少く栗田口より押せり
鳥居大路火をくけられたり云前云十禪師の社の鳥居は通條ふありや斯ふ斯ふ名
くちあり一説あり鳥居大路と家名とあり人こも住りかえり斯号けりなり尚其苗孫の

鳥居大路 上岡崎より栗田口十禪師の過つた大路と云又車大路といふなり
太平記小云建武二年正月奥州の国司北畠顯家卿二万余騎少く栗田口より押せり
鳥居大路火をくけられたり云前云十禪師の社の鳥居は通條ふありや斯ふ斯ふ名
くちあり一説あり鳥居大路と家名とあり人こも住りかえり斯号けりなり尚其苗孫の

鳥居大路 上岡崎より栗田口十禪師の過つた大路と云又車大路といふなり
太平記小云建武二年正月奥州の国司北畠顯家卿二万余騎少く栗田口より押せり
鳥居大路火をくけられたり云前云十禪師の社の鳥居は通條ふありや斯ふ斯ふ名
くちあり一説あり鳥居大路と家名とあり人こも住りかえり斯号けりなり尚其苗孫の

鳥居大路 上岡崎より栗田口十禪師の過つた大路と云又車大路といふなり
太平記小云建武二年正月奥州の国司北畠顯家卿二万余騎少く栗田口より押せり
鳥居大路火をくけられたり云前云十禪師の社の鳥居は通條ふありや斯ふ斯ふ名
くちあり一説あり鳥居大路と家名とあり人こも住りかえり斯号けりなり尚其苗孫の

今清蓮院の宮の家臣なりと傳へ其家名ゆゑ土地の名も有り有へり
十禪師の社の鳥居條也云鳥居大路といふ其鳥居大路に人故小家を鳥居
大路といふなり其地名をとりて新田といふなり
織田明智の地名なり

東三條社

右社選の西の方ふ二堆の丘あり本光寺の正西ふなり九二回半許四百高五六尺許
上小樹木なり古ハ地方境置く東三條の社といふ俗に鶴の社といふ

傳云近衛院の御宇東三條の森の方より黒雲一むら立来りて御殿の上は
覆へ必り帝おひきせ給ひたり依り源賴政鳴絃の術を以て其化鳥と退
治御感を蒙りて平家物語小見えたり以故世人鶴の森と呼なり

鶴のりり者なり村も一鶴志を郎と云

景樹
常矩

東三條殿古趾

右同所の辺なり
今其詳詳なり

保元物語小云新院の御方の武士東三條小籠居り或ハ山上小登り木の枝小
居り姉小路西洞院内裏高松殿を窺ひ見たり聞えり保元元年七月
三日夜下野守義朝小仰せく東三條の留主小候ふ以監物藤原満貞并武士
二人召捕り子細を問る云来十日左大臣流罪の由定め申さる謀叛の事

既小露頭小依りたり其故左府東三條小有僧を籠り秘法を行きせ

内裏を呪咀し奉りて由開き下野守義朝小仰せく其身を召されたり

東三條殿小行向見り小門を閉り蔽りて明け依り西表の南の山を破り

入りぬ角振集の社の前を過り千巻の泉の前小壇を立り行僧あり相摸の

阿闍梨勝尊と三井寺の住侶あり女數多寄取り是と搦り中界件法

法鳥瑟沙摩金剛童子小天狗と聞えり新院御謀叛の事頭と云

法鏡山妙傳寺

二條川東町の東北の隅あり法華宗一級地目意上人の開基甲州身延山天竺
天竺山と云り又當山身延山と云り天竺と云り

本堂 西向 中央法華首題牌 釋迦佛 日蓮上人像 涅槃像二又許其を
目惠上人靈夢を奉り 安置り 廟堂 本堂の権あり正法華院の觀を指し高僧蓮大士の

七面明神堂 本堂の西北の傍あり中央七面明神 大黒堂 本堂の北傍あり

當寺の開山日意上人其初め殿山小あり天台の學徒を改宗し本山

身延の中興日朝上人の廣學小飯徒弟あり夫より高祖の靈骨城

分ち七面の神跡等と都小勸請九重の身延山と當寺を建立せり

往古創建の地に上京あり中古西洞院綾小路今妙傳寺の辺に迂る尔後
 秀吉公の命ずるに京極の二條に移る後世又今の地をうつり
 伴師蒼虬翁墓 洞寺中の墓あり

傳云蒼虬翁八代田氏中加州の藩中高祿の士なり天性大量相負雄偉やうき若きより
 引馬の道とさきめられたる能諧をたしむる蘭更を師とて故あり仕へを辭し
 入るの後師が終焉ありて遺言を承りて東山芭蕉堂とすなり南無菴ありて後退隱
 八坂の里に對塔菴をむけし若きを養へり能祖芭蕉翁以國に自然小をたしむる
 風雅の道の中頂よりせり成なりと歎き万葉集のむきさをうり能潜小正風は
 眼をいれ俗語平語を肯く風雅を弘く都鄙よわらひり卒去の後
 門下の高弟ありて撰りて變風をのめりて俗淡小過く野車とちりありて
 下江に流るる十哲の人々正風の後旨とす其門葉士流小至てく
 一癖を傳りてのち次第小たへ後百年に世道絶たれり其門葉士流小至てく
 の頃浴衣の尾張加賀小名世ききりて世に専ら蕉門正風とて人諸風士と道と
 祖籍を用發のこめりて春の日の冬の日々の高調より導くことかたし中各小世
 本意を達するにやあはれいしを以て長壽をたしむる附分、薄月夜小梅の菴とて
 松竹のそとに青柳の小雨ふたりたりかたりて附分、薄月夜小梅の菴とて
 改たり目詰平語の正風とありて諸師の本懐を達し神はれりて天朝をう
 ありて天保十三壬寅に 弥生中の三日八十三歳ありて瀛を對塔菴ふまはれりて
 二条のひび、妙傳松刺の、かたむきをちりたりての石の昔むらさ
 名い千載不朽き、実小蕉門中興の祖師と
 仰き称まなぐまた有たき公雨なりか此

宋の元を左右へ明く、そのの音 蒼虬

雪のこも田一枚枯れぬふもま 全
 うら若く水田のうらなはれ 全
 廣原や一里んゆれうたふと 全
 五月ぬやほほ居る一洗語島 全
 静たうれりのをなると秋の法き 全
 家まふさすいんはけきたれ 全
 夕舟の中はゆきの夜明け 全
 よろへちれきハスハスハ 全

西方寺 妙傳寺の南西側あり浄土宗知恩院末願海山と号し旧八両替町春日の南
 西方寺町ありて後世に移り 額 里額 西方寺 大炊御門左大臣經宗公筆
 本尊 阿弥陀佛 本堂の傍に衣通姫地蔵と称し尊像をまつる小堂願成地蔵に諸人多く
 来由寺あり今こも畧せり

大炊御門一家塔 當寺あり 隆宗公より以後多し

小野寺秀和母墓 日墓地あり 轉學院法室妙輪大姉 元禄十五午歳九月廿

播州赤穂の城主淺野内匠頭長矩家臣小野寺十内秀和の母六多川九左衛門の娘

九十歳の時伊藤仁齋より東涯父子詩と作これと賀以其集小見えり

小野寺一族墓 日所南小野寺より小野高九面と淺野内匠頭家来

藤原未葉小野寺氏有奥州勢州何勢州小野寺嫡孫

又以串劔信士 小野寺十内秀和壽六十一

刃風颯劔信士 同 幸右衛門秀富壽二十八

刃回逸劔信士 岡野金右衛門包秀壽二十四

刃無一劔信士 大高原吾忠雄壽三十二

元禄十六年未年二月四日 小野寺十内妻丹建之

此墓石ハ秀和の妻丹女の建所より幸右衛門の子なり岡野包秀大高忠雄は十内の

甥なりゆれは太石内蔵助良雄は後七右の佐と報り義臣より妻丹女右墓碑と建

後日年六月十八日本国寺中了竟際より自滅を當西方寺ハ小野寺の檀寺なりと丹女の

傳詠ふハ淚痕集一名人の繼とよまの季ハ洛陽を都小載なれハ愛小畧ハ

起倒流劔法之祖堀田佐五右衛門墓 日所あり銘文を彫り延享中小建所なり

今猶諸国の流末の士より詩あり云

聞名寺 同所東側あり大炊道場舊京極大炊御門あり故小斯号く又其始ハ

本尊阿弥陀佛 立像三尺許 延命地藏尊 堂前の庫中安置

光孝天皇塔 堂前あり七層の石塔波なり高廿二間あり故ありて建

秋野道場 寺内あり林名寺と号しつありハ南都ありて聖徳太子の草創なり

香川宣阿法師墓 墓所あり又景新 景平 黄中 并 景樹 翁夫妻

師名ハ竟真後宣阿と号しハ梅月堂とハ周防岩國吉川家の老臣

たり故ありて退身ハ京師小来然も猶君侯より厚く俸を賜ふ

とぞ難髪ハ清水谷實藤卿の門小入和歌を研究ハ終小一家哉

たり其統今小昌たる居を洛の一條小トハ故小廿一條の今西行と

称ハ享保二十年九月廿二日歿ハ辞世あり墓面小彫ハ

本尊阿弥陀佛 一真なり 願基ハ交公天阿上人

眼界無邊 一心豁然 清風渡水 明月懸天

大恩寺 同所あり浄土宗 慈覺大師作洛陽四十八願所巡の

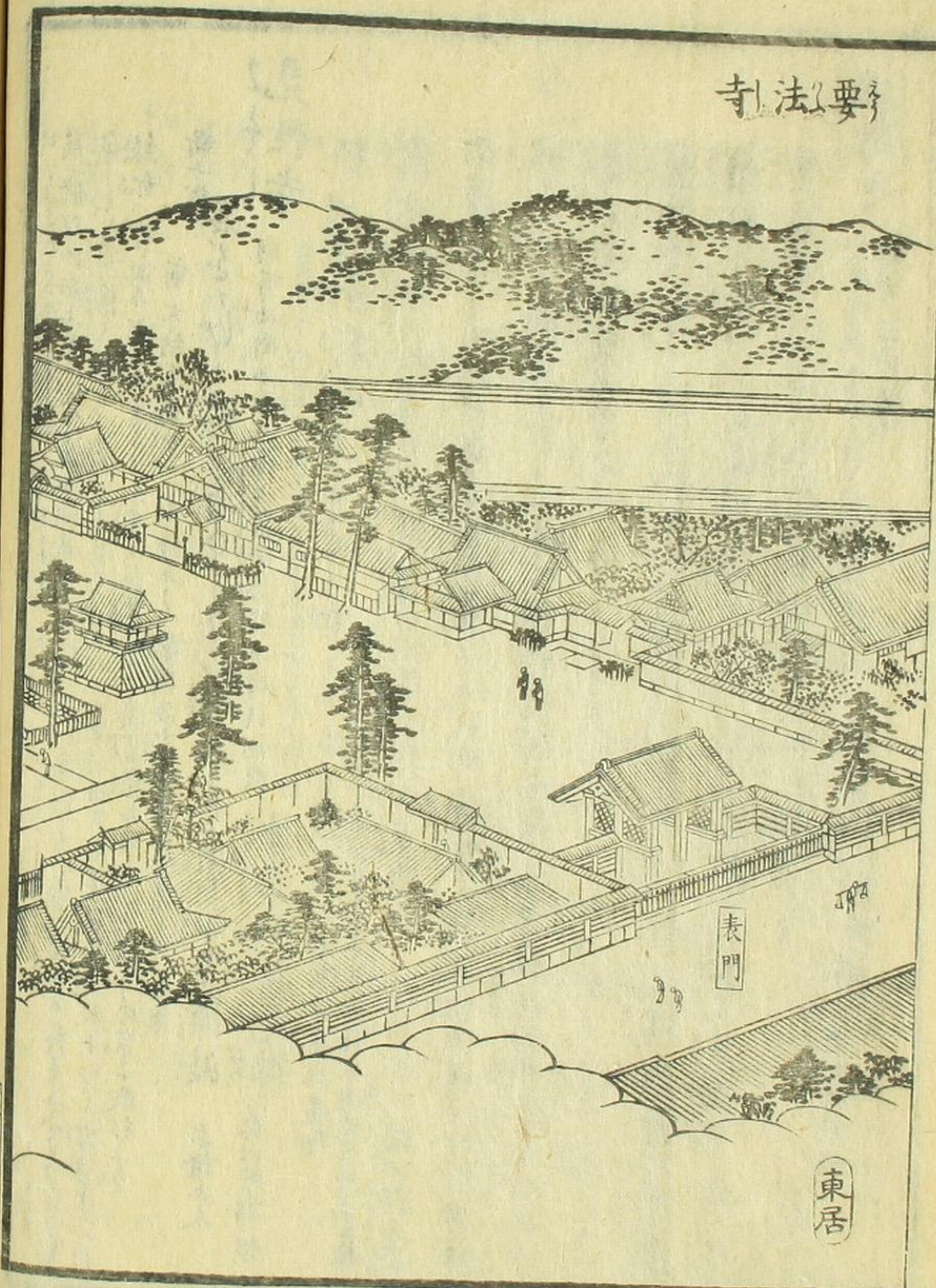
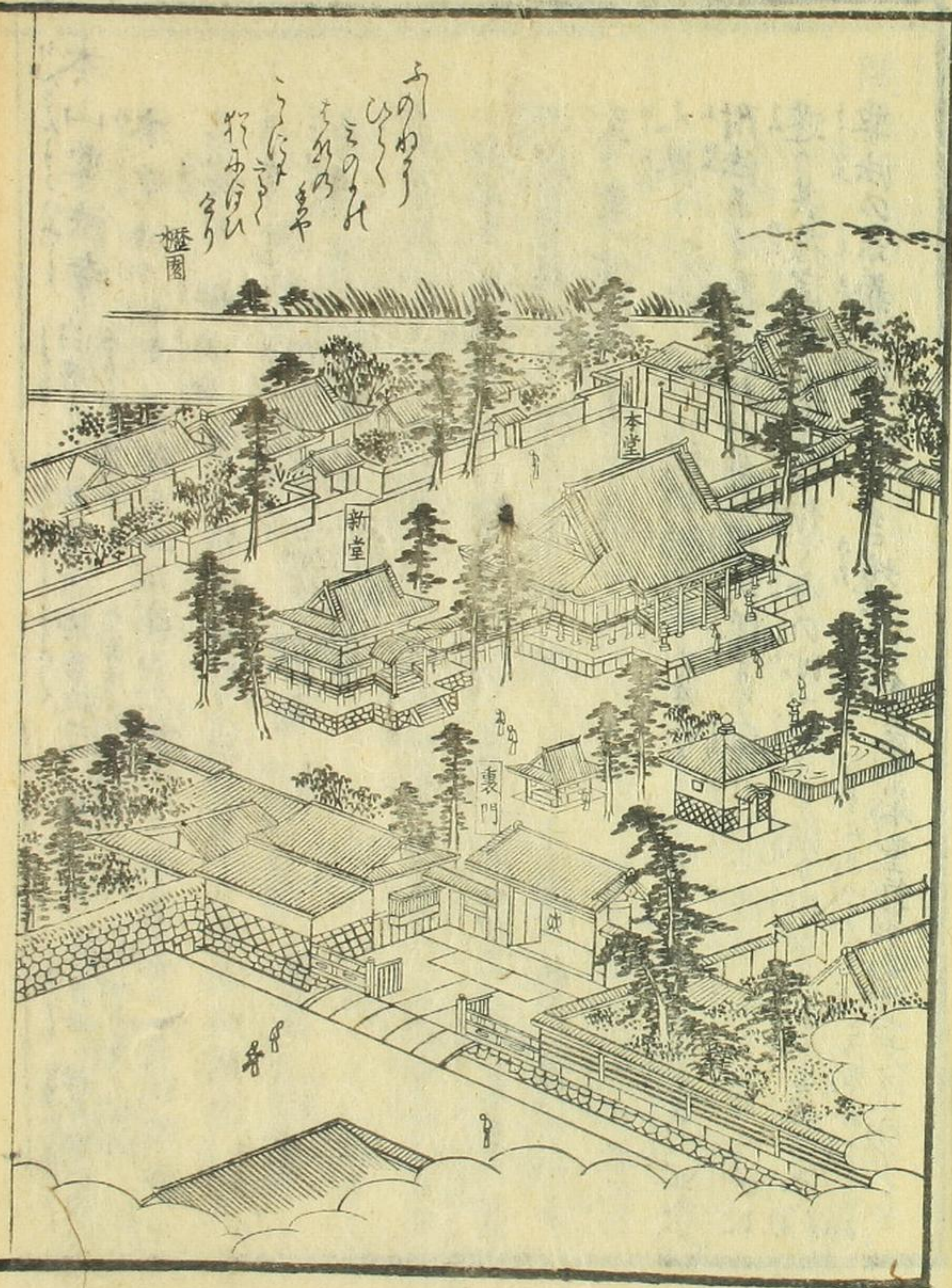
百万遍小願ハ

何らわんた花紅葉月言のそ

何らわんた花紅葉月言のそ

何らわんた花紅葉月言のそ

何らわんた花紅葉月言のそ



本山要法寺

本堂

南向 中央 宮殿中より日尊上人書寫の本尊并小蓮祖讀經の像

額

横額 玄宗極池本時上行杖柔惠日長照閣淨

新堂

本堂の西あり 釋迦牟尼佛と安ん 鐘樓 本堂の東南あり

表門

南向 裏門 西向 平廣坊あり 經藏 本堂の西南あり

當寺開山日尊上人の六老弟三白蓮阿闍梨日尊上人の弟子中より

二位法印久成坊と号し當寺の花園院御宇正和四年の創建也尊師の

行徳の靈場記中相見えたる如く總十六年の中小西の藝州石州雲州より

至り東へ津輕外を濱小及び三十六箇の寺塔建立あり真假の教化授法の

人奉り討てて王城の地小此大本山を建立し正統の弟子日門上人小

附法あり天文法乱の後泉州堺より醒井通小遷住り又天正中寺町に

遷り其後室永の火災小依り今の地小移さる誠し推實二教と正一本門

要法の宗義を弘めゆる境なり 傳日當寺古來山号あり何れの所あり可名

聞法山頂妙寺

本堂

南向 中央 法華首題牌 釋迦牟尼佛 多寶如來 服土 文殊

不動

四天 増長天 持国天 四菩薩 上行菩薩 淨行菩薩 廣目天 無邊行菩薩 安立行菩薩

樓門

堂前あり南向 額 聞法山 堅嶺 鷹司政忠公筆 東持国天 長七尺許蓮慶

拜殿

樓門の前あり二天の 祖師堂 樓門の東あり西向

大黒天堂

祖師堂の北あり西向中央大黒天 三十番神社 本堂の東傍あり相殿小

刹堂

本堂の西傍あり 鐘堂 刹堂の北あり 寶庫 祖師堂の 總門 南向

當寺の開基権大僧都日祝の姓の千葉氏下総國千葉郡の人なり同國中山

法華經寺の住職日薩法師の弟子中より三十七歳文明五年小當寺を開

細川治部少輔源勝益寺地寄附り頂妙寺と号し日祝上人永正十年

四月十二日八十七歳中より寂し辭世の歌小云

八十あまより七年くはく人を流し命わくくの橋柱を非

其初の新町通下長者町あり文禄年中小高倉通中御門の北小移り寛文

右同所の西あり法華宗十六本山の一なり 寺領二十一石開基日祝上人

本山要法寺

日所より法華宗勝勢派二十一箇寺の一なり其始ハ醒井綾小路小

あり今要法寺町と云其後京極三条小より道世又爰より移り

を安ん 額 横額 玄宗極池本時上行杖柔惠日長照閣淨

新堂 本堂の西あり 釋迦牟尼佛と安ん 鐘樓 本堂の東南あり

表門 南向 裏門 西向 平廣坊あり 經藏 本堂の西南あり

當寺開山日尊上人の六老弟三白蓮阿闍梨日尊上人の弟子中より

二位法印久成坊と号し當寺の花園院御宇正和四年の創建也尊師の

行徳の靈場記中相見えたる如く總十六年の中小西の藝州石州雲州より

至り東へ津輕外を濱小及び三十六箇の寺塔建立あり真假の教化授法の

人奉り討てて王城の地小此大本山を建立し正統の弟子日門上人小

附法あり天文法乱の後泉州堺より醒井通小遷住り又天正中寺町に

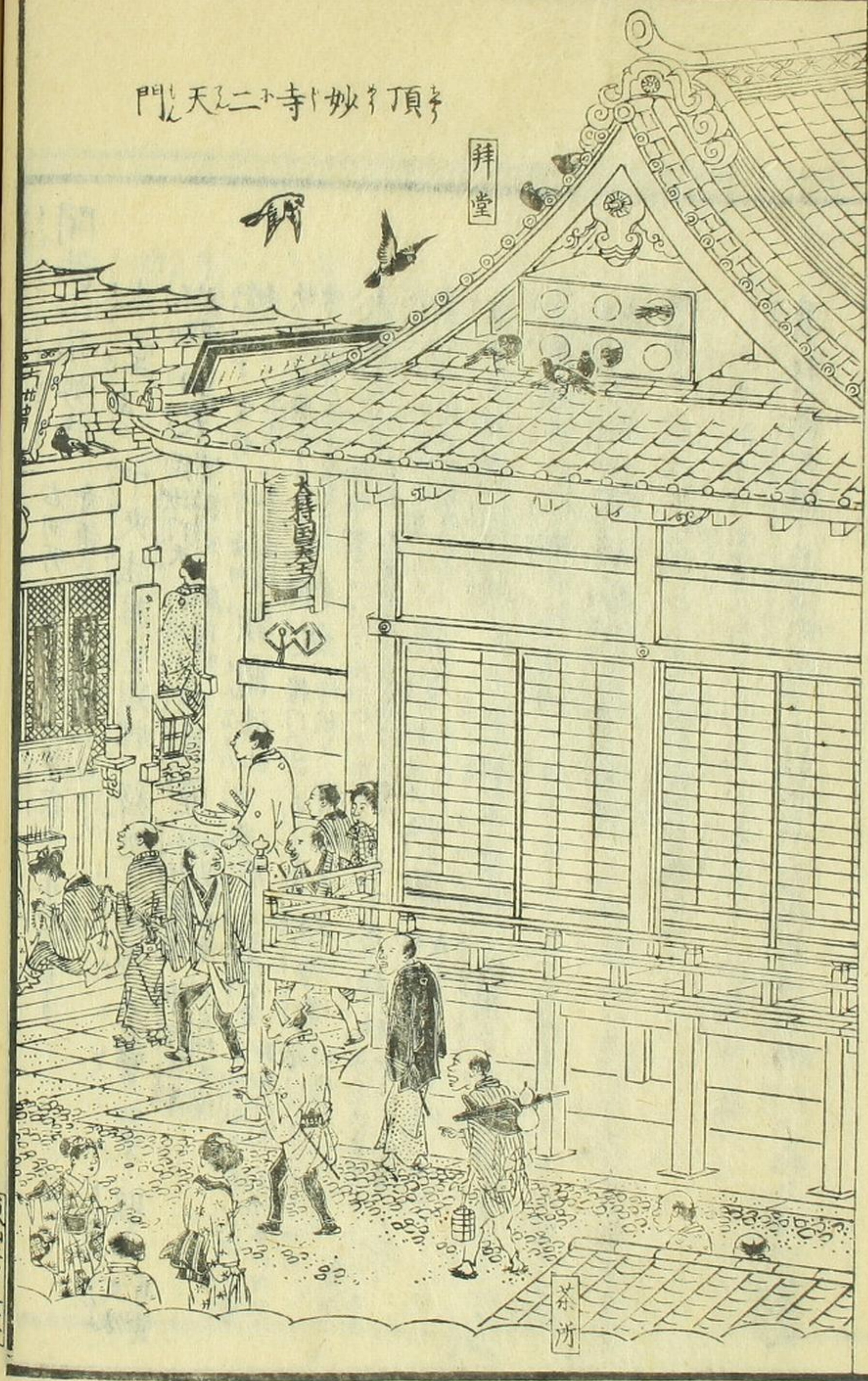
遷り其後室永の火災小依り今の地小移さる誠し推實二教と正一本門

要法の宗義を弘めゆる境なり 傳日當寺古來山号あり何れの所あり可名

多宝富士山本地上行院と長岡上人の口傳なり

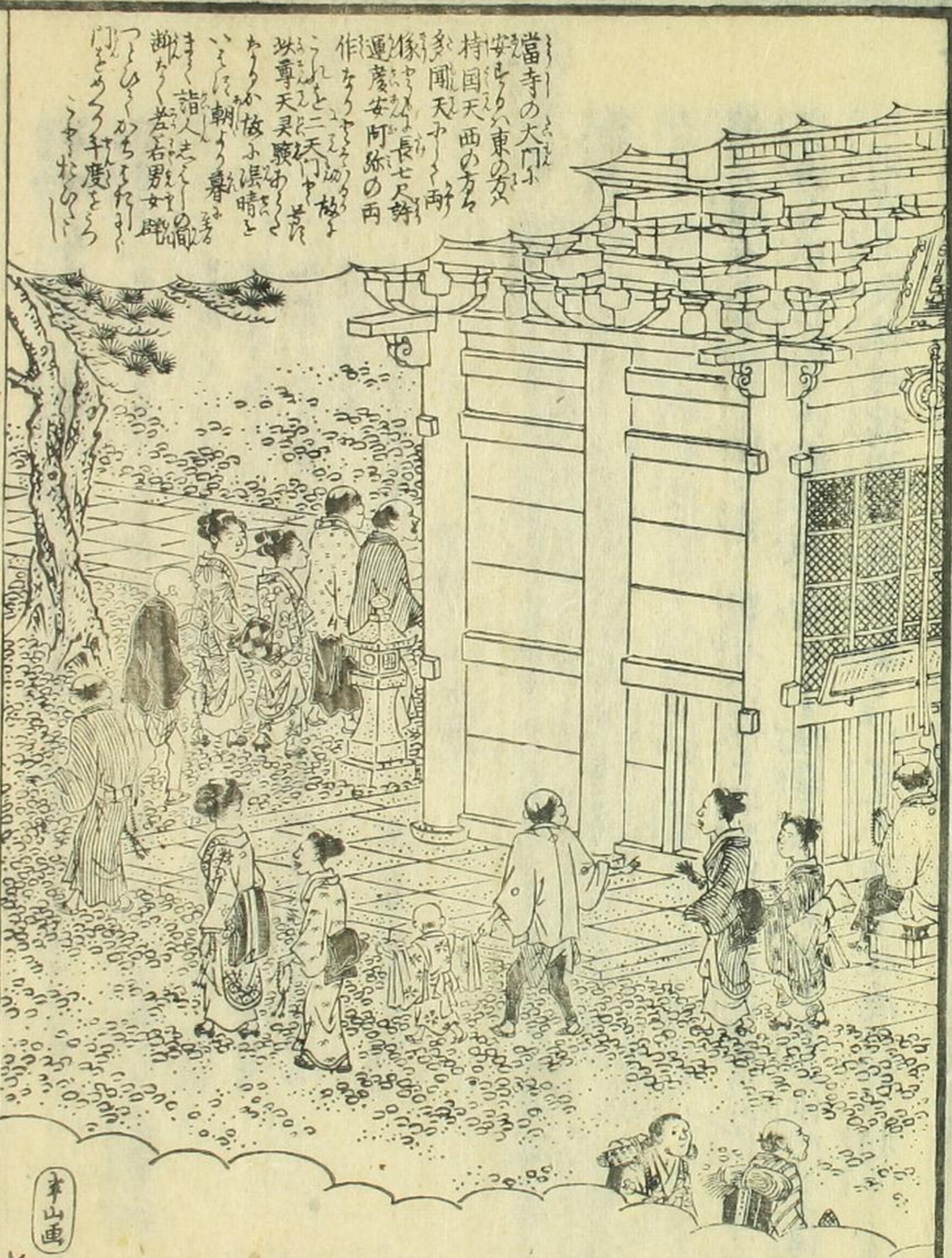
門天二寺妙頂

拜堂



茶所

當寺の大門は
安海の東の方
持国天西の方
多聞天やうり
像や公長七尺餘
運慶安阿弥の兩
作なりやうり
これと二天門や
以尊天灵験あり
なんが故小浪晴と
いふに朝より暮
まじく詣人志の
湖や若右男の
つとむりやうり
いふやうり
いふやうり



本山

年中又此地小轉細川勝益寺進狀云明應四年十一月廿百五
天正十二年秀吉公の台命下さる所の證狀當寺小あり其文云

先年安立同答又折寺念寺遠吟味方座牙四妙之文書
估文早お遠決之儀之者改之被作書上之之中院法寺
如前之有傳之刻法目解之通以載之作付之安法寺入
應之漢書

七月廿五日 日祝上人 玉条下

民於御法平玄以 在判

法皇寺

右頂妙寺の東あり法皇寺也云當寺始り乙訓郡今里あり後大仏方廣寺の迎小轉然ふ又

觀音堂

寺院の南あり南向觀音堂の西傍あり門前町の名とあり

當寺

往昔乙訓郡今里あり弘法大師性靈集ふ載る所の乙訓寺是なり

傳云

推古天皇始堂を建觀音の像を安置以爾後荒廢以弘仁六年僧

空海

を以乙訓寺の別當職ふ補せり性靈集中獻棋子表云沙門空海言

乙訓寺

有數株楫橋樹依例奉獻と云寛平法皇脱履の始り行宮と云

東山二七廿二

此時再興ありト云以來法皇寺と号以爾後星霜を經く足利將軍義滿
公此を尊崇大檀越たり右其頃真言宗たり然る寺僧爭論の
事あり之小依兩僧と追故南禪寺大寧院の住たり伯英和尚と請
當寺の住職と改め禪宗となり後世大寧院小属以伯英徳後禪師入唐の僧
推古天皇と始り宇多天皇及び鹿苑院相國義滿公の尊牌寺小ありト云
元禄年中此地小移祖師堂宇尚存以頃年僧隆光再修と山城志小見えり

本妙寺

二王門通東の端あり法華宗妙境寺派祥光山と号以寺内小

熊野權現社

額熊野大權現二の鳥居ハ九太所條東川端あり

本社

南向熊野權現拜殿同上行者堂本社の後西傍あり投行者

搆社

富士權現本社の西小あり金毘羅權現満山護法神本社の東あり

稻荷社

拜殿の西傍あり觀音堂本社の東南あり西向準依觀世音と茶所西傍

鳥居

東向額日本第一大堂聖額熊野大權現聖護院道見親王華同西向額熊野大權現聖護院華

當社へ往昔後白河上皇の勅願ありて熊野新宮を勸請し給ふ事ありて封
境廣大なり宮殿の全砂を鑿め樓門廻廊校舎經堂魏々として在り
所相具を以て初建立の時熊野より土砂を運ぶにや宮殿の地を
築き樹木花草ふたふた熊野より移し植ふ事ありと云く
新熊野新宮と号し然るに應仁の兵革此地戰場なりと云く悉く焦土と
なりと後世斯るに再宮せり此森の境廣くともあはれ老
樹森々として木蔭蔭鬱たり炎暑の時苦熱を辟き小憩あり
梅林茶店 西島居前の左右より西店に庭中小数株の梅樹を植ふ或木下小菽をあまし植
秋日大萩の花事ありと云く初春の花の頃清香四方小菴と雪野菴と
ついでに梅雲を備へて最盛なり

二月十五日聖護院の梅のふゆとふまうと云く
夜ふく冷さあつと梅をわん
月の夜梅のふゆとふまうと云く
三子
さく梅の花小光をまつたさく月の梅ふかむと云く
滝原 宋閑
花と忍ぶと云く
垣本 聖臣

櫻塚

熊野推現の表より九町より西九太町通の南手田圃の中九二間半四面高廿四五尺の
塚あり一説に宇治悪左府頼長公の社ありと云く左府墳なりと云く
然るに又さく社のありや栗田宮の同址と云く遠くは尚考ふべし 諸神記に見えり

宇治左大臣頼長公と申し知足院禪閣殿下忠實公の三男と云く入道殿の公達の
御中小殊更愛子と云く御座り人品も左右及ぶれ上和漢も小人小勝と
禮義を調へ自他の記録小暗くは文字世小知られ諸道小浅深を搜る朝家の
重臣撰録の畧量なり然し御兄の法性寺殿の詩歌小巧と云く梅手跡の美御座
り賢臣必し是を好むと云く我身もひて全経を學び信西を師と云く鎮
學窓小籠と云く仁義禮智信を正し賞罰動功を別し政務を切と云く
上下の善惡を礼せられ時の人悪左府と申なる 保元 按て小盛安記に崇徳院の宮の東手宇治
白河北殿 續世述物語に白河大炊内門殿より熊野推現の表の南より
保元物語云新院 崇徳 十一日 保元元年 田中殿 鳥羽 白河の前齋院の御所へ
御幸なる云又云新院の齋院の御所より北殿へ遷らせ給ふと云く白河殿より

栗田社舊趾

聖護院の西北小ありの大地中一宮殿の遺蹟なり傳云治承二年正月建礼門院御懷胎の御胎を悪霊につくると小護安院の御霊と神子明王の

家集

杉心と云ふ年の事まじくは枝のえまきと云ふはかきまきと云ふは

樓臺月映素輝冷七十秋開紅淚餘

式部大輔 永範

式部大輔永範 七十一 右京權太夫頼政 六十九 清輔 六十九 前式部少輔維光 六十三

百練抄云 永安二年三月十九日 寶莊嚴院ふ於て和歌の尚齒會あり散位頼

以下七更たり清輔朝臣結構也云々 敦頼 八十四 神祇伯頭廣 七十八 日吉初宣成仲

阿弥陀堂の敷地を以て北殿ふあり然るに古園小見えたり

後一旦門の中へ引取れり其後河原と直達小馳渡り陣小のれ歸る言ふ文

攻付たり其時朝敵の勢小義朝を見兄弟の礼をわたりしに義朝を射と

阿弥陀堂の敷地を以て北殿ふあり然るに古園小見えたり

門より西南小あり其後河原と直達小馳渡り陣小のれ歸る言ふ文

本陣と引れり須藤父子海老名素野等を討つと二百余騎を討つに

陣小のれ歸る言ふ文

追つて

追つて

追つて

宗徳院御影堂

右同所あり一圓ふあり其趾を以て

東鑑云 元暦二年五月朔日 武衛御書と左衛門局小遣ふは是崇徳

院の法華堂領備中國の妹尾を進せし畢に供佛施僧の媒と

御菩提と訪ひ奉らるべきの趣之を載件の禪尼に武衛の親類也當

初彼院の御寵女たり云々

宗徳院御影堂

右同所あり一圓ふあり其趾を以て

身命を弄く御神體壘御宮を取出し奉る文和三年二月朔日御再建同

六月廿日卜部兼敦兼く遷宮に神主隆昌重連兩人更々五年宛れを補

精進也 大中臣日記云 建武元年七月五日 栗田社焼拂ふの所小畠中重連

民部卿經房卿使丹藏助惟宗久義應永七年九月九日 當社の神供御

酒を用ふべきより宣旨を下され畢に丹藏寮の御幣宣命を立られ上卿

四月十五音勸請 建久四年八月十五音己酉祭を始む自今以後今月中

諸神記云 栗田宮 宗徳院宇治悪左府頼長六條判官為義を元暦元年

縛ありてありて 崇徳天皇の追号を授けたるなり今之の旧地の字をヒトク井と云ふ土人

崇徳院とありて 唱ふる少石の地蔵あり俗小食地蔵と云ふ

帝王編年記白河の中御門 今の榎木町 末の北河原の東小神殿を造り
崇め奉らるれ崇徳院と号し保元戰場是也と云々則此地の事なりむ前
白河の北殿の舊趾と有るべし此辺所々白河の殿舎有る成へ

家集

聖護院宮

熊野推現の森の北東あり法親王に在り往昔開基智證大師中
頃より法親王任職し則ち三井の長吏又熊野三山の別當たり是故
當門主修驗道を兼く山伏を官領し給ふ當院初に常光院と号し寛治
年中三井寺の聖護院増善僧正此所任職し給ふより聖護院と号し
此僧權大納言經輔卿の息なり熊野三山の別當職の始也九山伏天台
真言の二流あり天台に當聖護院御門主に属しこれを本山とて真言
醍醐三寶院に属しこれを當山とて熊野三山の檢校へ天治年中僧正行尊と
其始とて牛車許され三山の檢校となり修驗道の事と預ると云々

堯孝

中嶋棕隱宅

聖護院村西南若松町あり

翁名規字景寬通称文吉毛棕庭前小磐茂故小棕隱と号せり
其先訥所翁伊藤仁齋の門下名譽たり以来世々儒を以て業に
平安の名家なり翁詩名の海内小顯然たり實小秀技の奇才あり
新嘗人賜を拉く殊小鴨東四時雜詠の如き好士を感哭せし江湖の
頑儒輩以悪く好く其落を主とし且和歌を伴蒿蹊小學ん又
逸品たり晩年此地を構う園を造り亭舎以構へ詩歌の餘興狂詩
文と著り曾一酒樓を營ぎ戯小銅駝餘霞樓の偏を掲げこれ小
客を延く對酌劇飲以園中牡丹の名品數株を栽り花時小雅志
放觀せしむ咏牡丹の詩若干首あり今爰小抄録し翁晩年
小薙髮一益意小任せし詩歌を吟詠し時小安政二年六月
廿八日歿し年七十七

壬辰三月錦織草廬落成賦之自祝十首

全錄一

潦倒無憑四十年如今始得買閑田
經營居易闕三瓦開豁面明支數椽
移柳恰宜稱白傳種梅何必問連僊
不須相祝煩詩筆獻壽南山已自然
丙午春夏之交樊園牡丹盛開

平昔後先得十二首今錄三

老懶移花似有捐不防霜雪構茅椽
今春豐美羨過蕉益悟芳真在自然
相逢花底奈無儲下酒不過烹菜蔬
猶幸茅堂牡丹會為鄰島曲有香奩
宗公尺八阿倉絃飛曲轟花坐酒邊
都下文章今委地好將聲伎訂芳緣

全全全

山はやのゆるゆると軒窓は後ふらふらの羽ささる
心はも善いもあまのふらふらとささる
心はも善いもあまのふらふらとささる
心はも善いもあまのふらふらとささる

賣茶翁通仙亭趾

聖護院村小賣茶翁肥前國蓮池の人なり姓榮山氏諱を
元昭月海と号し早年より禪髪を黄檗獨地禪師の弟子と
なり後小通と号し平安ふ出茶を賣く餅を助く九春の花より
とらると常く自ら茶具を荷ひてつらつらと歩みける
終つて蓮華王院の南の庵中化す八十時宝曆十三年癸未七月十六日

有髮僧形古陌東屏跡偏五山高法臘
六祖遠心傳當選松為塵伺門竹若椽
風旗疑酒肆霜葉認茶筵好事宅新識
清談是痛綠寧無博士著不計老婆錢
朝采梅峰種夕和鴨水煎候湯誰聽雨
赴鼎自薰烟本產蓮池玉尚通雲間仙
飲中知淨理一味澹參禪

合雜

後高倉院陵

旧村の北竹林の中あり岡田華實因小見えり高倉帝弟二の皇子二品守貞
尊号を奉る百歳抄小云貞應二年五月十四日太上天皇山明葵北白川云云
又續後撰集小見えたり

圓覺寺舊趾

今詳々拾芥抄云北白河一説小島居大路の西二条の
末の南の田の字と圓覺寺云云

三代實錄云元慶四年十二月四日癸未太上天皇
春秋三十一七日丙戌奉葬太上天皇於山城國愛宕郡上栗田山奉置

御體於水尾山上

保元物語云源為義宿所圓覺寺の館水火を掛焼拂ひぬ云

同京師云為義の山莊北白河圓覺寺云々又云為義入道義朝小仰七條

朱雀中誅せし首實檢の後義朝小給く孝養まべき由仰下され

々々圓覺寺小収り墓を建壇を築き平都婆を以て造立せり云

平家物語云故左馬頭義朝の首平治の後に獄舎の前なる苔の下小埋れ

後世吊ふ人も無しと時の大理ふつけ申請東山圓覺寺といふ所小深く

収置たり云々又異本義經記云安元二年正月三日義朝政家十七回小

當より其方様の人々圓覺寺や形の如の佛事作善と管たり云

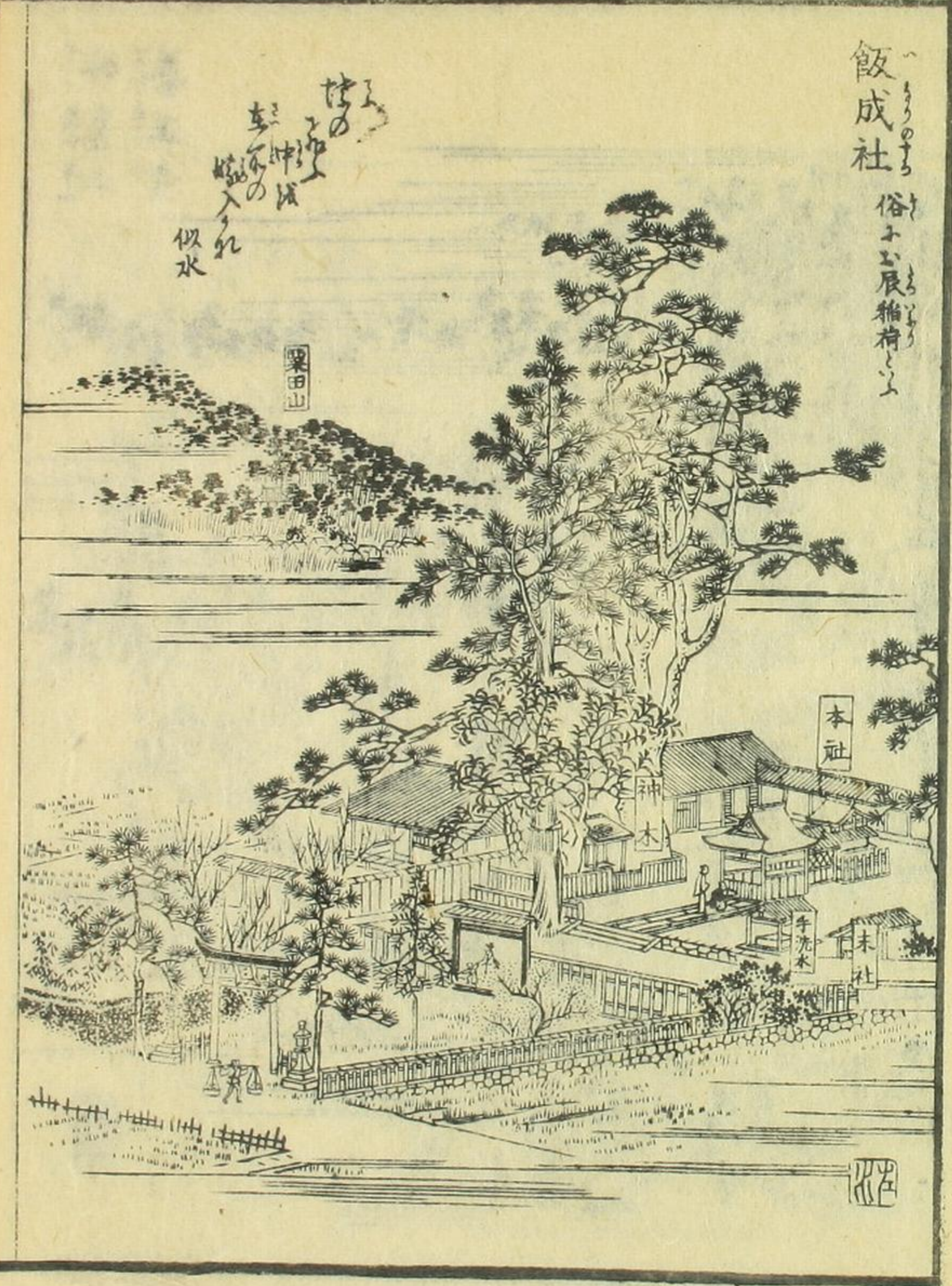
新羅森聖護院築地の東つふあり申小新羅明神の祠を建つれ三井寺の

御所稻荷社聖護院の東街遷の北傍ふあり申小一條殿館丹ふありと以

辨天豊春稻荷の社等は聖天堂あり

飯成社右同所聖護院表の巽の方田圃の中ふあり申小辰流と申所稻荷の川上良

守り其殿の常諸人多社地樹木鬱葱神またり

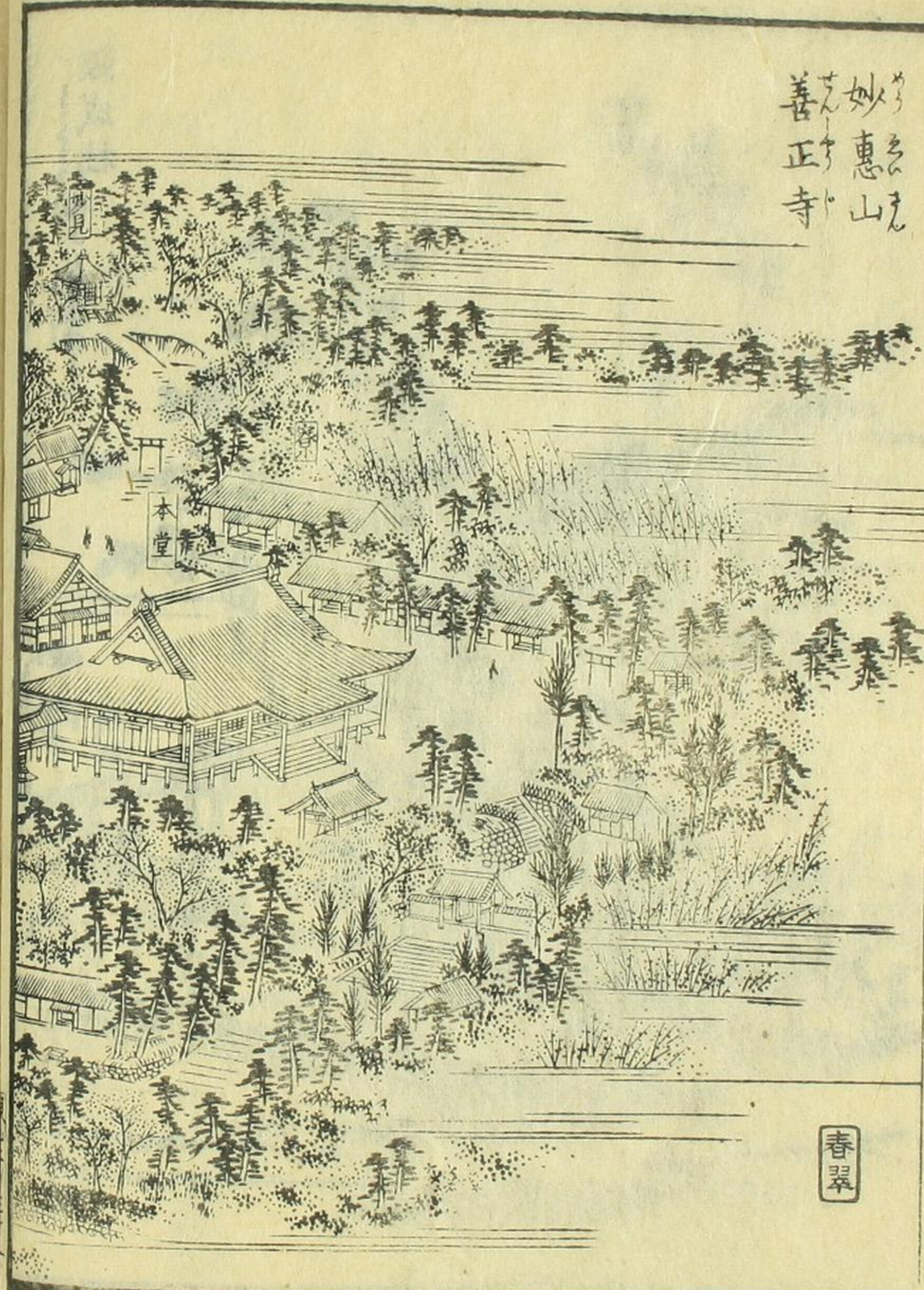
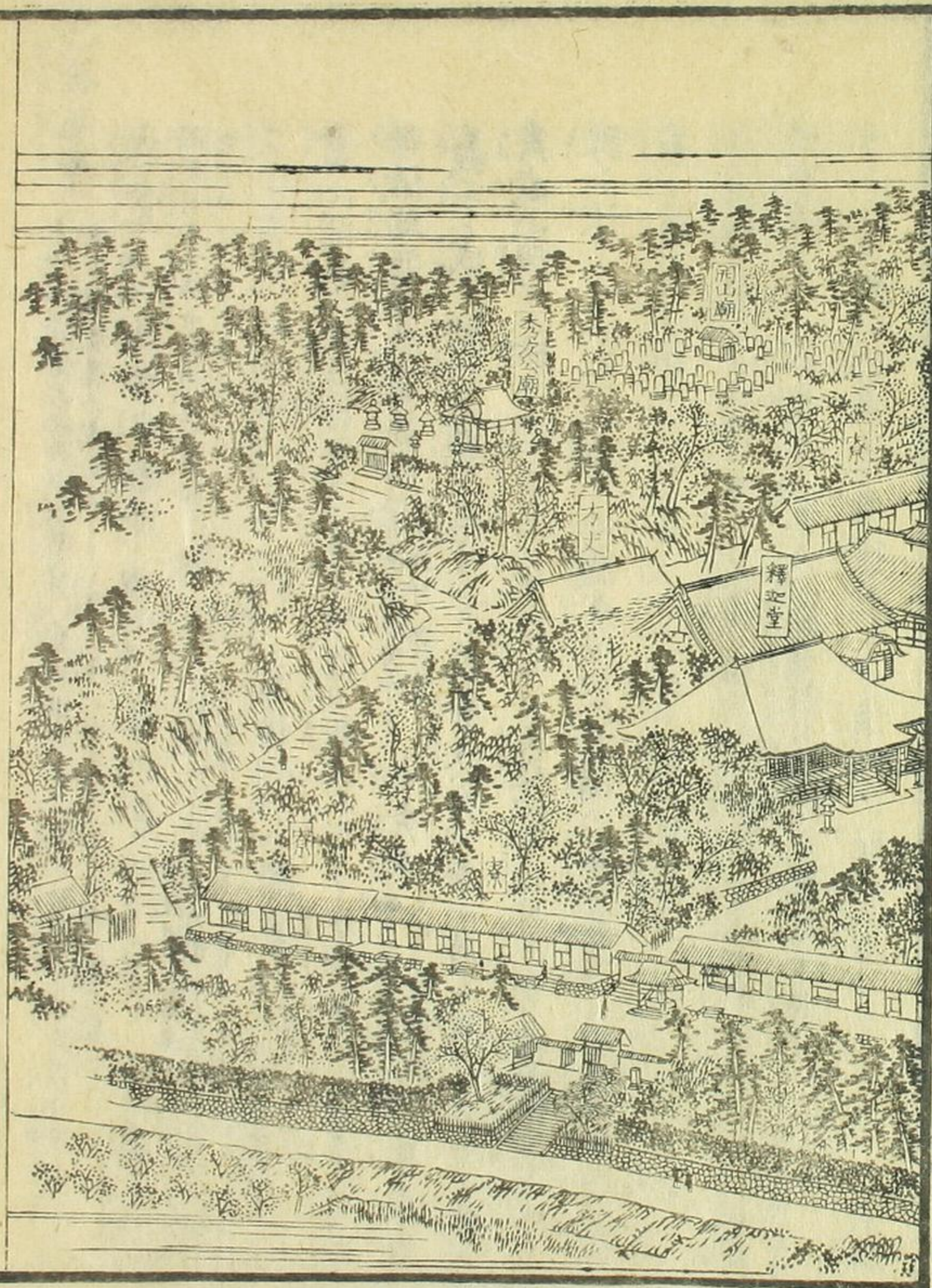


飯成社 俗に辰稻荷といふ

飯成社
辰の
稲荷
の
社
似水

栗田山

印



妙惠山
善正寺

春翠

善正寺

右同所の東北あり法華宗一教流本國寺小属妙徳山と号し豊臣秀次公の母公瑞龍院の建立也堂の後小秀次公おとりの御一類の墓あり

本堂 南向 法華首題牌 釋迦佛 釋迦堂 本堂の西あり南向本尊釈迦佛

肥前国玉名郡中村の民人靈夢と感 漁人の網ふり 金剛九寸の座像元和元年二月廿日

瑞龍院秀次公元寺星の秀次公屋敷喜小勝の其壯嚴と新たす 當郡史富田重吉公像と傳く

三十番神社 鐘樓 堂前西 學寮 本堂の東傍表門内の

當山開基の求法院第三世本妙院日鏡上人や 本願の豊臣閑白秀次公の

母儀瑞龍院殿日秀法尼 法爾秀法尼の妹也 秀次 始め三好康重の養子

義子と成り閑白の職と嗣ふさる秀次公の四海小肩を双ふる人たり遂に

其威小誘て給ひ秀吉公の命小背き文祿四年七月十五日小高野山小於く

誅小伏しつゝ小依り母儀秀次公の追福の爲小建立し給ふ秀次公の法

名と善正院殿高岸道意大居士と号し故小善正寺と名付たり日鏡上人

山を開き樹木を植へ全く一大場と成り元和二年二月 又學校の四世小つたり頭壽

院日演上人の真起たり夫より詮量院日休師小學徒と讓り 万治元年閏十月

り小する程小諸國より僧徒あり講演の座小文庫となく式日の義論

誠小切が如く瑳が如く春の都下の貴賤花小詣り来る老若男女の歩も多き

毎年數日法談あり京童の諺や櫻談義をうたふ當山の並水もろろ

爛熳の堂上堂下小幕次張り謡と舞と法の道と酒宴遊真小三界の苦と亮

沙婆即寂光の妙土を觀んば忽ち爰小釋迦佛と持し金銅像の座佛

少く海中現出の靈佛たり殊小万品無量の宿願奇なり感應を得る

事小普く世人の知る所なり實小海内無雙の尊像なり 毎歲三月九月廿日より

善正寺前殿下高嚴道意塔 同堂の後小あり 廿三日迄開扉あり

健性院三位法印日海塔 右日所あり秀次公の父公たり

瑞龍寺日秀尼塔 右同所あり豊臣秀吉公の妹

致祥院榮岳利生塔 右同所あり秀次公の室なり政所と稱し菊亭石大臣晴季卿の

妙泉道喜妙授各靈塔 各日所あり秀次公の 知息なり共小誅伏し 此余秀次公弟丹波守少將

秀勝同季弟又大和太納言秀長卿の母公の塔あり畧之

景光院前右府月叟常空塔 同寺あり今出川宣季卿中々本國寺

日相僧正の父公たり

近衛坂

善正寺門前の北の坂とて是則ち洛中近衛通と通は俗に出水通とて一條たり又俗に

按ずるに此邊に靈鷲院とて寺院ありや靈鷲院を近衛坂と号す

三井寺院家也山城名勝志に見えたり藤氏系圖寺房瑜号靈鷲院

應仁記云三井の御門徒に圓満院聖護院花頂實相若王子畠山近衛坂云

香川景樹宅

善正寺の南路の東側あり

景樹翁に因幡國鳥取藩中某氏の次子たり京師小出徳大寺家の臣

香川景樹の嗣子とて若き時より詩を好み天京の妙あり然るに故有

跡を他人小嗣しめ別一家をたけ然も香川を以て稱し今徳大寺家

の侍臣をり長門介小任に終る近年獨歩の名人と稱せり小至る嘗

て古今集を正しく解得んことを深く志ぎ夙夜研究し竟る古今

集正義と著り其説たりや契沖師の餘材抄縣居翁の打聞鈴屋翁の遠

鏡其他古註小普く涉獵諸説の誤を辨駁一己の見識とて大新説と

出人各感伏後當岡崎小住又鴨河の西涯小別居頻小奇書と講

其徒小教示以時小門小幅淡く教とけ添削と請ふの士千を以て教ふ海

内翁の門人のあつる國下りてや天保年間琉球人來聘せり小其

正使浦添王子歌を能く九人翁の風を欣慕し門小入り詠歌の添削と

請ふ是其美と異邦小及りの大盛事なり又國華を以てや翁山陽頼氏

や友り善く常小和漢詩歌の義と論り天保十三年從立松下肥後守

小叙任に同十四年三月晦日卒に年七十四門人嘆惜禮を厚く洛東聞

名寺小纂に後名と實安院悟阿在焉居士と号し著述の書古今集正義

百首異見土佐日記創見中宮記六十四番奇結薄水桂園一枝新學異見

万葉集据解活言考等たり其他家小遺稿ありり季々八世の家傳目毛

土肥二三趾同村小あり茶人系傳云土肥二三名ハ豊隆と云節て

牧野備後侯小仕茶を織田貞置小崇ふ云々

二三ハ俗稱土肥孫兵衛とて三州吉田府牧野侯小仕祿二百石を食む一子

松失ひ忽ち隱心を生し仕と辭し薙髮以後岡崎小住自在軒とて

火宅とも志し火宅小ややく直小自在の籠子たりり

是依軒号とて縁小膝と客なるの宅を茶の織田の風を學びて
 香を好む平家を諸君琵琶の上手なるを常におぼしめて討の美
 服を着たりし或時古下駄を纏つて持てつらりと向小借人小返に
 たりとひきつらう物事小意とてめり往來は所定あり懐小金二枚をた
 くもへ其包紙小何所やも倒せぬ所やと體をかへ給はれ是は其貴小
 充るなりと書付し伯倫の鋤を荷せたるよりかやきき所為なりされ健
 なる人少く齡九十近づき足駄をきく黒谷の茶店へ物喰小行と日三
 たび三十丈二日を過し足るを言わんとらん始り火け壺つすのふ米を畜
 へぬより夫も物づく成々一杜鶴と銘ある琵琶一面平家二巻を参州の
 士山田氏におあへ今尚其家小蔵せりとらん又二三名をよむる雜髮
 せし時人早く聞つけ書面を送り法師の名は何とか向ふ否未だ名は
 ちり二とも三とも書くとつ小傾く二三と書たれは是より名なるとて夫
 小極りしとて享保十七年正月六日没し年九十四 季一、逆世時人傳小 思えり

早稲田大学図書館

011688995886